

2012年3月期 第2四半期

株主・投資家の皆様へ

悠

No.


42



Contents

P1 オリックスReview 決算ハイライト/事業活動トピックス
2期連続で増収増益、収益性も向上

P3 COOメッセージ
「金融＋サービスの加速化」「アジア等新興国の成長を取り込む」という成長戦略を着実に推進

P7 おしえて！オリックス Vol.2
オリックスと大阪のニューフェイス 

P9 株主情報

裏表紙 オリックス・バッファローズ ニュース、表紙の解説

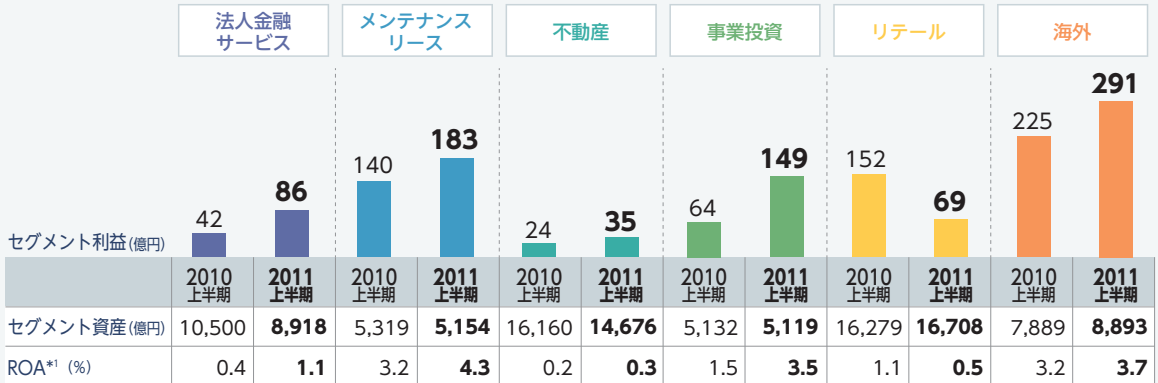

ORIX

証券コード:8591

決算ハイライト

当期純利益は前年同期比33%増の453億円。
2期連続で増収増益となり、収益性も向上しています。

セグメント利益・セグメント資産・ROA(前年同期比)



*1 税引き後、年換算後

セグメント別、上半期のポイント

- 法人金融サービス**
 - 新規実行高が増加し、リース収益や手数料収益が堅調に推移。
 - 貸倒引当金繰入額や支払利息が減少。
- メンテナンスリース**
 - コスト削減ニーズなどに対応した高付加価値サービスを提供し、収益は高水準で安定。
 - 車両の売却を含む自動車関連などのオペレーティング・リース収益が堅調に推移。
- 不動産**
 - 賃貸不動産の売却益を計上しつつ、稼働資産の増加に伴い不動産賃貸収益が増加。
 - 運営事業は、当初一部で震災の影響を受けたものの安定的に収益を計上。
- 事業投資**
 - サービス事業による回収や手数料収益が堅調に推移。
 - あおぞら銀行の株式売却による有価証券売却益を計上。
- リテール**
 - 生命保険事業、銀行事業ともに業績は好調に推移。
 - 持分法適用関連会社のマネックスグループの株式評価損を計上。
- 海外**
 - アジア地域のリース収益が安定的に推移。航空機関連収益も伸長。
 - 米国では、昨年買収したレッドキャピタル社、マリナー社が収益貢献。地方債の売却益も計上。

主な経営指標の推移

業績データ (単位: 億円)	2011年3月期		2012年3月期	
	第2四半期(累計)	通期	第2四半期(累計)	(通期見通し)
営業収益	4,709	9,673	4,832	9,800
当期純利益*2	341	673	453	775
	第2四半期末	期末	第2四半期末	
総資産	86,438	85,816	82,552	通期見通し 775億円に対して 58%の進捗
セグメント資産	61,279	61,428	59,467	
株主資本	12,798	13,193	13,303	

*2 当社株主に帰属する当期純利益

事業活動トピックス

4月

- インターネット申込専用定期保険Bridge [ブリッジ]の発売を発表(オリックス生命保険)

- 東日本大震災の被災地へ社員ボランティアを派遣

5月

- ドリームインキュベータと共同で運営する「DIアジア産業ファンド」の第一号案件として、ベトナムの有力乳飲料製造会社に投資

- 平成23年度「横浜グリーンパワー」(YGP)モデル事業の実施事業者に採択
- 「オリックス信託銀行」から「オリックス銀行」への商号変更を発表(*10月1日実施)
- 中国の水道施設運営会社「中国水務集団」に出資
- 環境分野に先進的に取り組む9社と藤沢市(神奈川県)が「Fujisawaサステイナブル・スマートタウン構想」を発表

6月

- JICAの「PPPインフラ事業 協力準備調査業務」仮採択

- 東日本大震災被災地の福祉施設などへ車両を寄贈(オリックス財団)
- 韓国で日系最大の投資ファンドを設立し、韓国の生命保険会社「未来アセット生命」に出資
- ソフトバンク クリエイティブとデジタルサイネージ事業の戦略的パートナーとして業務提携

7月

- 韓国のKDPOWER社製ディーゼル発電機のレンタルを開始(オリックス・レントック)

- 京都で開発中の内陸型水族館の正式名称を「京都水族館」に決定(オリックス不動産)

8月

- 「太陽光発電システム」+「電力一括購入サービス」を新築マンションに初導入(オリックス電力)

- リバースモーゲージで東京スター銀行と業務提携(オリックス・リビング)
- 金融機関向けに「移動店舗車」の販売を開始(オリックス自動車)

9月

- 「蓼科グランドホテル滝の湯」を取得し運営を開始(オリックス不動産)

- 終身保険RISE Support [ライズ・サポート]の発売を発表(オリックス生命保険)
- オリックスとシャープが法人向けビジネスで協業

イチロー選手と広告出演契約

- インドの自動車関連サービス会社を子会社化
- フィリピンで大型不動産開発事業に参画

木質バイオマス発電所の営業運転を開始

インターネット申込専用定期保険Bridge [ブリッジ]の発売を発表(オリックス生命保険)



定期保険Bridge [ブリッジ]発売と同時に、医療保険CURE [キュア] シリーズ3商品とがん保険Believe [ビリーブ]がインターネット

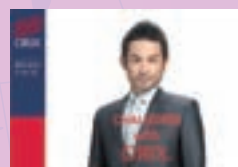


トからお申し込みいただけるようになりました。10月には終身保険RISE Support [ライズ・サポート]も発売し、合計6商品がインターネットからお申し込みいただけます。

イチロー選手と広告出演契約



「CHALLENGE with ORIX.」、
「CHALLENGE with ICHIRO.」
というキャッチフレーズとともに、オリックスグループのさまざまな広告にイチロー選手が登場します。



木質バイオマス発電所の営業運転を開始



群馬県で木質チップ専焼発電の「吾妻木質バイオマス発電所」の営業運転を開始しました。年間の発電規模は13,600kW、年間送電量は8,500万kWhで、一般家庭に換算した場合、約24,000世帯分の年間電力使用量に相当します。





「金融+サービスの加速化」 「アジア等新興国の成長を取り込む」 という成長戦略を着実に推進

不透明な事業環境の中、慎重に案件を選別し、
優良資産を積み上げていきます。

2011年12月

取締役兼代表執行役社長
オリックスグループCOO

井上 亮

2012年3月期の当期純利益見通し775億円
に対して、上半期を終えた時点で58%の進
捗ですが、上方修正はしないのですか？

2012年3月期第2四半期までの累計で453億円
の当期純利益を計上しました。2012年3月期の当
期純利益見通しは775億円ですが、現時点では通
期予想を据え置かせていただきます。欧州債務危
機と円高、国内の景気回復スピードが思ったより
も遅いことなど、不透明な事業環境が続いていま
すので、目標数値はそのままとし、状況を見極めたい
と思っています。

2012年3月期連結業績予想

営業収益 **9,800億円**
▲ (2011年3月期に比べ1.3%増)

当期純利益* **775億円**
▲ (2011年3月期に比べ15.2%増)

*当社株主に帰属する当期純利益

海外セグメントの利益貢献が
高いようですが、どういった事業が
好調だったのですか？

上半期では、投資先の売却益など大口のキャピ
タルゲインはありませんでしたが、アジア地域で
のリース事業、自動車リース事業、航空機のオペ
レーティング・リース事業などが収益貢献しまし
た。米国では地方債の売却益が好調で、前期に買収
したレッドキャピタル社、マリナー社の収益も安
定的に推移しています。

下半期も「アジア等新興国の成長を取り込む」と
いう経営方針のもと、海外事業は引き続き業績の
牽引役となりますが、アジア各国を見てみるとそ
れぞれの国によって課題や状況は異なりますので、
リースやプライベートエクイティ投資(PE投
資)など、個別に判断しながら進めていきたいと思
っています。オリックスの海外展開は昔から慎重
路線であり、今もその姿勢は変わりませんが、リス
クを慎重に見極めながら、攻めに軸足を置いて取
り組んでいきます。

例えば、中国での事業展開についてはどのように考えていますか？

中国ではインフレやバブル崩壊、政治リスクなどが騒がれていますが、現地に足を運んで感じる肌感覚と、マスコミなどの報道でいわれていることは異なります。GDP推移(グラフ1ご参照)を見れば明らかですが、中国をはじめとするアジア各国の成長は著しく、これらの地域でビジネスチャンスをつえ、積極的に事業を拡大していきたいと思っています。具体的には、リース事業(特に自動車リース)、環境関連事業を含めたPE投資を推進していきます。上半期は、中国本土で上下水道ビジネスを展開する中国水務集团有限公司(以下、中国水務)への投資を実行しました。



中国水務が運営する、湖北省荊州市(けいしゅうし)の下水処理施設

中国水務は中国の20以上の中小地方都市において上下水道施設の運営・管理およびその周辺業務(インフラ整備など)を行う水関連事業会社で、オリックスは中国水務をパートナーとして、中国水務の事業拡大を資本面でサポートするとともに、日本企業の持つ優れた技術・ノウハウの橋渡し役を担うことで中国での水ビジネスに参画します。

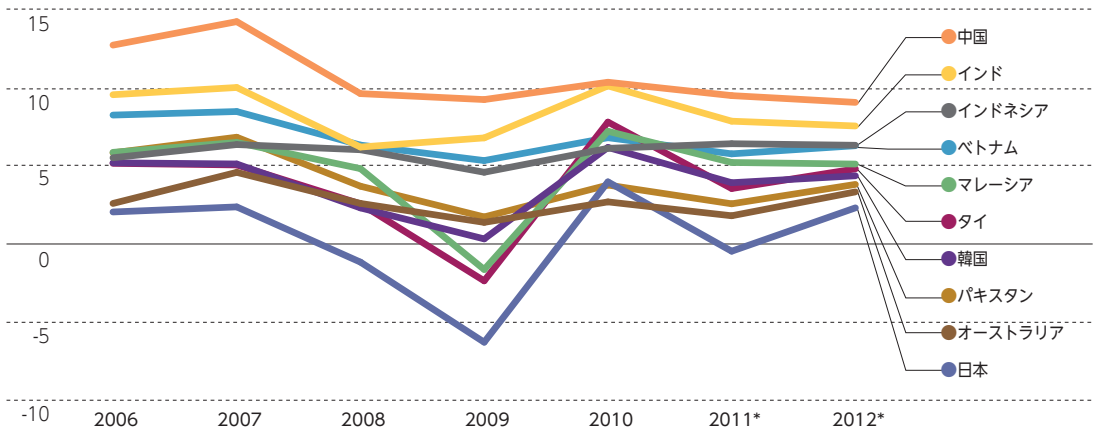
他に注目しているエリアはありますか？

今、特に可能性がある地域は欧州と米国です。欧州債務危機の影響で、金融機関にノンコアアセットを売却したいという動きがあり、実際にアプローチも来ています。しかし、規模が大きく、まだ価格も安くなっていない状況であり、交渉しながら見ていきたいと思っています。ほかのエリアでは、引き続きアジアでの投資ポテンシャルを模索していきます。東南アジアは案件によって価格や規模感もばらばらですが、上半期の実績としては、フィリピンで現地パートナーと共同で大型不動産開発事業に参画しました(P.5, Pick Up1ご参照)。

また、ラテンアメリカやトルコなど現在オリックスのプレゼンスがないエリアでも、金融セクターを中心に投資ができればよいとも思っています。

グラフ1：GDP成長率 アジア国別*

(年率 %)



*2011年、2012年は予想値

出所：IMF

COOメッセージ

欧州で債務危機が騒がれていますが、オリックスへの影響はありますか？

オリックスの欧州地域での事業展開は全体の割合からすると極めて小さく、ギリシャ問題をはじめとする欧州債務危機の直接的な影響はありません。ただし、その影響はアジア地域にも広がりつつあり、最悪のシナリオとして、第二のアジア危機^(*)再来の可能性も視野に入れています。しかし、オリックスの財務体質はアジア危機のあった1997年と比較しても格段に強化されており、仮に第二のアジア危機が実際に起こったとしても乗り切れると考えています。

海外以外のセグメントの下半期の展開について教えてください。

法人金融サービスセグメントは、「金融+サービス」^{(*)2}のサービス部分により重点を置いて営業活動を行っており、収益性のさらなる改善がどこまでできるのが下半期の大きな課題だと思っています。

メンテナンスリースセグメントは、上半期は中古車両売却益や再リース収益が好調でしたが、今後は

海外展開に注力していきたいと思っています。先日発表した、インドでの自動車関連事業強化もその一例ですが(P.6, Pick Up2ご参照)、インドや中国でのオペレーティング・リースの展開も進めていきます。国内においては業務改革、業務の標準化を通じた収益性の向上もメインテーマです。

不動産セグメントは、資産の圧縮と優良資産への入れ替えを進めます。運営ビジネス、再生ビジネスに加え、アセットマネジメントを通じて収益を上げていきます。運営・再生ビジネスでは、2011年9月に、長野県茅野市蓼科温泉郷の温泉旅館「蓼科グランドホテル 滝の湯」を取得し、オリックス不動産が運営する6件目の旅館として、再生に向けて新たにスタートしました。

事業投資セグメントは、それまでの「投資銀行セ



「蓼科グランドホテル 滝の湯」

Pick Up 1

フィリピンで大型不動産開発事業に参画

オリックスは、2011年9月にフィリピン第二位の商業銀行Metrobank^{*1}傘下の不動産デベロッパーFederal Land^{*2}と、共同でマニラ市において大型複合施設を開発することで合意しました。

本プロジェクトは、新都心でフィリピン最高層級となる地上66階建てのホテル・オフィス棟と、下層階にブランドショップや飲食店などの商業施設も入居するコンドミニアム棟を建設する計画で、竣工はホテル・オフィス棟が2015年春、コンドミニアム棟が2016年春を予定しています。フィリピンでは、Metrobankグループを戦略パートナーとして実績を積み重ね、着実に事業基盤を構築しており、今後も成長が続くアジア市場において、国内で培った専門性とアジア各国に有するネットワークを活用し、収益の拡大を目指します。

※1 Metrobank : Metropolitan Bank and Trust Company

※2 Federal Land : Federal Land Incorporated



完成イメージ

Pick Up 2

インドの自動車関連サービス会社を子会社化

オリックスは、2011年9月にインド・ムンバイ市にあるIL&FS*1およびその関連会社が保有するO AIS*2の株式約70%を譲り受ける契約を締結しました。これにより、O AISはオリックスの連結子会社(出資比率99.95%)となります。

O AISは、インドで自動車のリースや割賦、レンタカー事業、トラックローン事業など、自動車関連サービスを提供してきました。現在、オリックスは日本を含む世界19カ国において自動車リース事業および関連サービスを展開しています。今回の子会社化により、グローバルに自動車関連事業を展開するオリックスのノウハウを提供し、今後さらなる成長が期待されるインドでの事業拡大を目指します。

※1 IL&FS : INFRASTRUCTURE LEASING & FINANCIAL SERVICES LIMITED

※2 O AIS : ORIX Auto Infrastructure Services Limited

グメント」から名称を変更しました。環境エネルギー事業を法人金融サービスセグメントから移管し、環境エネルギー関連の資産拡大、国内外メガソーラー(大規模太陽光発電所)など事業の収益性をどこまで上げられるかがメインテーマです。

リテールセグメントは生命保険・銀行で多様な商品開発、サービスの付加価値を高めることが重要です。銀行事業では、「オリックス信託銀行」の名称を「オリックス銀行」に変更し、新規ビジネスとして開始するカードローンによる資産の積み上げとさらなる収益性の向上に期待しています。

東日本大震災を受けて、復興関連のビジネスは出てきていますか？

「これからは内需」という意見も聞こえていますが、日本国内は政治の混乱などで、政策対応がかなり遅れ気味の状況です。自家発電機や建設機械を中心に復興需要もようやく始まったところですが、本格化するのは来年の3月以降かと思っています。オリックスもタイミングを失しないよう状況を見ながら、新たなニーズに対応していきます。



東日本大震災による補修工事で稼働する大型クレーン車

法人金融サービスセグメントの建機・鉄鋼営業部では建設作業車のリースを取り扱っています。建機業界に関する専門性を高め、物件価値の目利き力や業界ネットワークを生かしたビジネスを展開しています。

最後に、一言お願いします。

「金融+サービスの加速化」の進展や資産の入れ替えで収益性も高まり、資産残高にも底打ち感が見えてきています。下半期も中期目標であるROE10%を達成するため、優良資産の積み上げと収益性の向上を地道に行ってまいります。

用語解説

*1 **アジア危機** アジア通貨危機(the Asian Financial Crisis)。1997年、米国のヘッジファンド等による通貨の空売りが、タイを中心にアジア各国の急激な通貨下落を引き起こし、東~東南アジアの各国経済に大きな悪影響を与えた出来事

*2 **金融+サービス** 単に金融機能を提供するのではなく、さまざまな事業領域で培った専門性やノウハウに裏打ちされた高付加価値型のサービス提供を国内外で拡大する戦略



大阪の活気はオリックスがつくる!

オリックスと 大阪のニューフェイス

大阪は、オリックスの創業の地であるとともに、オリックス・バッファローズの本拠地でもあるなど、オリックスグループとの縁が深い場所。2011年3月に竣工した大阪新本社ビルを拠点に、関西エリアの活性化に寄与してまいります。



オリックス 事始め

1964年、大阪の地で創業。

1964年4月、わが国のリース産業の将来性に着目した日綿実業(現・双日)と三和銀行(現・三菱東京UFJ銀行)が中心となり、オリエント・リース(現・オリックス)を設立。当時の本社は、北新地にありました。社員一同「リースを日本に普及させよう。新しいことに挑戦しよう」と日々議論を戦わせ、現在の基盤を築いたという点で大阪は「オリックスのDNA発祥の地」ともいえます。

今年、大阪本社は新たに完成した「オリックス本町ビル」(写真中央)に移転し、14のグループ会社が集結しました。創業時のDNAを忘れず、グループ経営をさらに推進していくことで、お客さまの多様なニーズにお応えしてまいります。



バッファローブル

バッファローベル

「京セラドーム大阪」では、プロ野球の試合だけではなく、各種スポーツ競技やコンサート、展示会などさまざまなイベントを実施しています。

オリックス・バッファローズ ニュースは裏表紙へ!



バッファローブル(ブル):中央に高いビルが建っているね。

バッファローベル(ベル):あれが、オリックスの大阪新本社ビル「オリックス本町ビル」なんだって。迫力あるね。

ブル:高いビルといえば、ついに、「うめきた(大阪駅北地区)先行開発区域プロジェクト」の施設名称とロゴマークが決まったみたいだよ。「グランフロント大阪」ってカッコいいよね!

ベル:オリックスはこのプロジェクトに関わっているの?

ブル:もちろん!オリックス不動産が他の開発事業者11社と一緒に、オフィス、商業施設、ホテル、サービスアパートメント、分譲住宅の開発を進めていて、そ

の中でも中核施設となる「ナレッジキャピタル(知的創造拠点)」の開発を主導的に行っているんだよ。

ベル:「ナレッジキャピタル」?

ブル:アジアをはじめ世界へ、日本の「知恵と技」を融合させた新しい価値を発信していく複合施設なんだって。ベルにはちょっと難しかったかな。

ベル:そんなことないもん!2013年3月のまちびらきが待ち遠しいな。

ブル:あっ、見て!その前の2012年4月に「オリックス劇場」がオープンするみたいだよ。

ベル:本当だ!毎年、楽しみが一つずつ増えるね。「京セラドーム大阪」からも近いみたいだし、私も劇場の舞台上で踊ってみたいな。

ブル:それはちょっと・・・。

京セラドーム
大阪

大阪新本社ビル「オリックス本町ビル」

地上29階・地下3階建てで、大阪市営地下鉄四つ橋線「本町」駅直結の「オリックス本町ビル」。大阪の街を一望できる最上階の展望テラスは一般開放しているため、眺望をお楽しみいただけます。



展望テラス

オリックス劇場

旧大阪厚生年金会館大ホールが、2012年4月8日に、新名称「オリックス劇場」としてリノベーションオープンします。大阪文化発信の拠点としてより多くの人に愛され、文化の香りがする街のDNAを継承していきます。



完成イメージ

完成イメージ

Cブロック:分譲住宅

Aブロック:オフィス、商業施設

Bブロック:ナレッジキャピタル、オフィス、商業施設、ホテル・サービスアパートメント、コンベンション

グランフロント大阪

うめきた(大阪駅北地区)先行開発区域プロジェクト全体の施設名称が「グランフロント大阪(GRAND FRONT OSAKA)」に決定しました。この名称には、大阪の新しい玄関口にふさわしい「世界に開かれた最前線のまちであり続けたい」という思いが込められています。



株主情報

会社概要 (2011年9月30日現在)

会社名 オリックス株式会社
設立 1964年4月17日
従業員数(連結) 17,553名
事業内容 多角的金融サービス業
連結子会社 731社
関連会社 97社
拠点数 (日本を含む世界27カ国・地域)
国内 1,157拠点
海外 302拠点

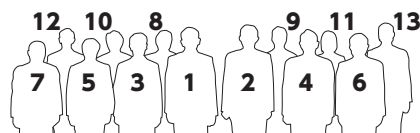
取締役

(社内取締役)

- 1 宮内 義彦
- 2 井上 亮
- 3 浦田 晴之
- 4 西名 弘明
- 5 小島 一雄
- 6 山谷 佳之
- 7 馬着 民雄

(社外取締役)

- 8 横山 禎徳
- 9 竹内 弘高
- 10 佐々木 毅
- 11 辻山 栄子
- 12 ロバート・フェルドマン
- 13 新浪 剛史



株式情報 (2011年9月30日現在)

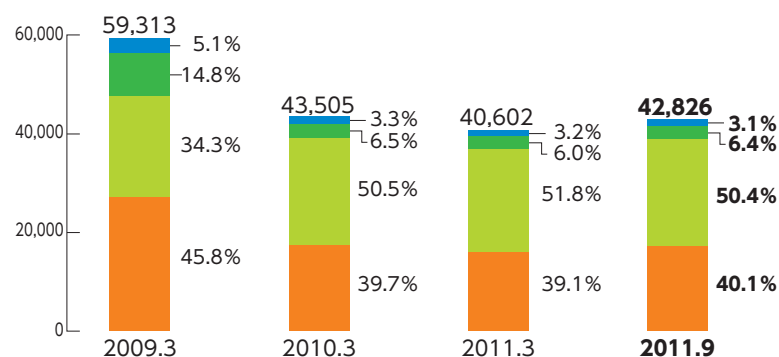
発行会社 オリックス株式会社
発行可能株式総数 259,000,000株
発行済株式の総数 110,249,238株
株主数 42,826名

株主メモ

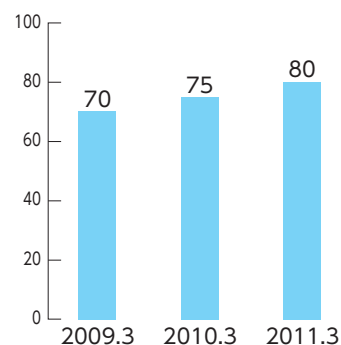
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
 ☎0120-232-711
上場金融商品取引所 東京・大阪証券取引所 市場第1部 [8591]
 ニューヨーク証券取引所 [IX]

株主数(名)・所有者別株主構成比の推移(%)

■ 金融機関等 ■ 外国法人等 ■ 個人 ■ その他



1株当たり配当額の推移(円)



株主アンケート結果のご報告

2011年7月発行の株主通信「悠」No.41でご協力をお願いしましたアンケートに、4,480通のご返信をいただきました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。株主さまからの貴重なご意見を、今後の情報発信や株主さま向けサービスの参考にさせていただきます。アンケート結果とご意見の一部をご紹介します。

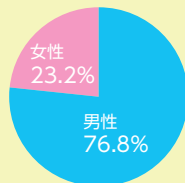
実施期間

2011年7月～
2011年8月

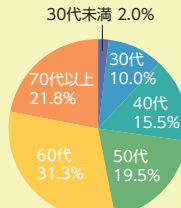
返信数

4,480通
返信率:11.0%

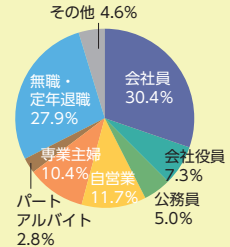
性別



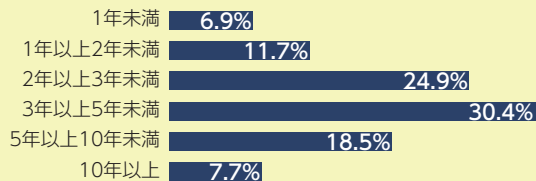
年齢



職業



オリックス株式の保有期間



アンケートにご回答いただきました株主さまの株式保有期間は、「3年以上5年未満」の割合が最も高い結果となりました。

株主の皆さまには、引き続き、中長期的な視点でオリックスの成長を見守っていただきたいと思います。

株主さまからのご意見



今後の海外展開について
知りたい

A.

COOメッセージの中で、今後の海外展開に関して詳しく説明させていただきました。業績を牽引していく分野ですので、引き続きご注目ください。



どのような社員が働いて
いるのか、紹介してほしい

A.

株主情報ページで取締役を写真付きでご紹介し、表紙ではアジアの現地法人で働く社員をご紹介します。今後も、オリックスを身近に感じていただけるような内容を検討してまいります。



オリックス・パファローズの
情報や選手の声を知りたい

A.

裏表紙のオリックス・パファローズ ニュースでは、岡田監督のメッセージや、今期活躍した平野投手・坂口選手のコメントをご紹介します。



今後のIRスケジュール (本スケジュールは予定であり、変更になる可能性があります。)

2012年

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

「悠」No.43
発行予定

2012年3月期
第3四半期決算発表予定

2012年3月期
通期決算発表予定

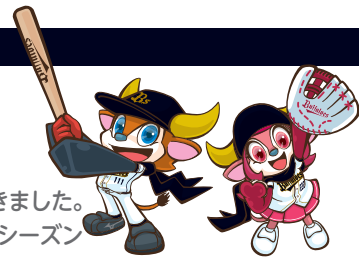
第49回
定時株主総会開催予定

7月31日 株主カード
有効期限終了



たくさんのご声援、 ありがとうございました。

皆さまのご声援のおかげで今シーズンも最後まで戦い抜くことができました。結果はリーグ4位と非常に悔しさの残るシーズンとなりましたが、来シーズンはこの悔しさをバネにチーム一丸となって優勝を目指します。



©ORIX Buffaloes

リーグ4位
成績 69勝 68敗 7分

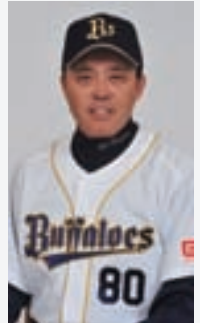
プレイバック!ペナントレース

残念ながら勝率わずか1毛の差でクライマックスシリーズ進出を果たせなかった今シーズン。連勝もあれば、連敗もあり、浮き沈みが激しく、あのワンプレーが、あの一打が、あの一投が、と悔しさが多々残ります。

この結果を真摯に受け止め、苦い経験を生かし、来シーズンこそ必ず優勝するんだという強い気持ちを持って、チーム強化に取り組んでまいります。今後とも、オリックス・バファローズへ熱いご声援をよろしくお願いします。

岡田監督のメッセージ

一年間、ご声援ありがとうございました。今シーズンは、東日本大震災の影響で開幕が遅れましたが、野球ができることに感謝し、全力でプレーをしてファンの皆さまに勇気を与えることが我々の役目だと思い、ベストを尽くして戦い抜きました。浮き沈みの激しいシーズンで、最終戦に負けクライマックスシリーズ進出を逃してしまいましたが、若いチームは、最後に競り負けたことで何か違うものを得たはずです。来シーズンは今年以上の成績を目指しますので、ご期待ください。



岡田 彰布 監督
©Bs 11-019

2011年パ・リーグ個人タイトルを2選手が獲得しました!

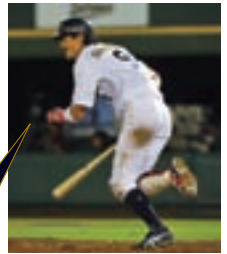


最優秀中継ぎのタイトルを獲得した平野 佳寿投手

©Bs 11-019

大事な場面で使っていただいたし、チームのみんなが獲らせてくれたタイトルです。来季は今季以上に活躍し、優勝に貢献します。

全試合に出場し、獲得できたタイトルですが、大事な時期に打てなかったのが悔しいです。来季は200本安打を目指して頑張ります。



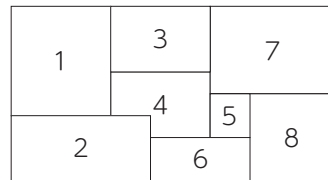
最多安打のタイトルを獲得した坂口 智隆選手

©Bs 11-019

表紙の解説

表紙は、アジアの現地法人で働く従業員と各国の都市の写真の元にデザインしています。

オリックスグループは、人材活用のスローガンに「Keep Mixed」を掲げ、国籍、年齢、性別、職歴を問わず、異なった価値観や経験を持つ多種多様な人材が最大限に力を発揮できるような価値ある職場づくりを進めています。常に新しい可能性に挑戦する気概や創造力に満ちた人材が、「金融+サービスの加速化」および「アジア等新興国の成長を取り込む」という経営方針のもと、グループ一体となって事業展開を進めてまいります。



- 中国** 1 上海市の高層ビル群
- 2 ORIX (China) Investment Co., Ltd (中国本社)の役員室
- フィリピン** 3 ORIX METRO Leasing and Finance Corporationの経営陣
- 4 マニラ市街
- 台湾** 5 ORIX Taiwan Corporationで勤続22年の営業マン
- 6 台北市街
- タイ** 7 Thai ORIX Leasing Co., Ltdの女性社員
- 8 バンコク市街

この冊子の内容についてのご質問、また補足情報をご希望の方は右記までご連絡ください。

オリックス株式会社/経営企画部 IRチーム・広報部
〒108-0014 東京都港区芝4-1-23 三田NNビル
TEL : 03-5419-5041 FAX : 03-5419-5901
URL : <http://www.orix.co.jp/grp/ir>



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

